万葉集

A

春過ぎて夏来(きた)るらし※白たへ(エ)の衣(ころも)干したり天(あめ)の※香具(かぐ)山

持統(じとう)天皇

春が過ぎて、夏が来たらしい。真っ白な衣が干してあるよ。天の香具山に。

B

東(ひむがし)(ン)の野に炎(かぎろひ)(イ)の立つ見えてかへ(エ)り見すれば月傾(かたぶ)きぬ

柿本人麻呂(かきのもとのひとまろ)

東の野にあけぼのの光がさすのが見えて、振り返って見ると月は西に傾いている。

C

君待つと吾(あ)が恋(こ)ひ(イ)居(を)(オ)れば我(わ)が屋戸(やど)のすだれ動かし秋の風吹(ふ)く

額田王(ぬかたのおおきみ)

あなたを待って私が恋しく思っていると、我が家の戸のすだれを動かして秋の風が吹く。

※白たへ…コウゾなどの木の皮から作られる白い布。
香具山…奈良県橿原市にある山。畝傍山・耳成山と合わせて大和三山という。

D

天地(あめつち)の　分かれし時ゆ　神(かむ)(ン)さびて　高く貴(たふと)(トウ)き
天と地が　神々しく

※駿河(するが)なる　富士(ふじ)の高嶺(たかね)を　天(あま)の原　振(ふ)り放(さ)け見れば
駿河にある　大空に　振り仰いで遠く見やると、

渡(わた)る日の　影(かげ)も隠(かく)らひ(イ)　照る月の　光も見えず
(空を)渡る太陽の姿も隠れ、

白雲(しらくも)も　い行(ゆ)きはばかり　時じくそ　雪は降(ふ)りける
(山にはばまれて流れが)行きとどこおり、時季にかかわらずに雪は降っている。

語り継(つ)ぎ　言ひ継ぎ行かむ(ン)　富士の高嶺は
言い継いでいこう

山部赤人(やまべのあかひと)

E

田子(たご)の浦(うら)ゆうち出(い)でて見れば真白(ましろ)にそ富士の高嶺に雪は降りける

田子の浦を通って出て(遠くに)見ると、なんと真っ白に富士の高嶺に雪が降っているよ。

※駿河…現在の静岡県中央部。

確認テスト

和歌を読んで、問いに答えなさい。

(1) Aの歌は句切れが二か所ある。それぞれ漢字で答えなさい。

［　　］句切れ・［　　］句切れ

(2) Bの歌でうたわれている光景の時間帯を選びなさい。

ア 明け方　イ 真昼　ウ 夕方　エ 夜中

［　　］

(3) Cの歌にうたわれている心情を選びなさい。

ア 恋しい人を待っているときの切ない思い。

イ 恋しい人が待っているのではないかとときめく思い。

ウ 恋しい人とともに人を待つときの退屈(たいくつ)な思い。

［　　］

(4) Dの歌について、――線部の意味を選びなさい。

ア 分かれた時に　イ 分かれた時から　ウ 分かれた時まで

［　　］

(5) Eの歌は、Dの長歌に添(そ)えられたものである。このような歌を何というか。適当なものを選びなさい。

ア 東歌(あずまうた)　イ 旋頭歌(せどうか)　ウ 反歌(はんか)

［　　］